

千葉県版チームオレンジ活動事例集



千葉県マスコットキャラクター
「チーバくん」

令和5年3月

千葉県健康福祉部高齢者福祉課

目次

様式概要	3
千葉市 1	7
千葉市 2	11
千葉市 3	14
松戸市 1	18
松戸市 2	21
佐倉市	24
柏市	28
鎌ヶ谷市	30
四街道市 1	33
四街道市 2	35
四街道市 3	38
四街道市 4	41
白井市	43
香取市	45
山武市	47
芝山町	50

3 チームオレンジ結成までの流れと経過

チームオレンジを結成した際の流れ（地域課題の状況、問題意識、きっかけ、関係機関への働きかけや調整、チームオレンジコーディネーターの役割、チームオレンジの元となる活動や取組等）と現在までの経過を記載しています。

4 活動内容

活動の内容について、写真や図なども使用しながら記載しています。

5 活動を進めていく上で工夫したこと・配慮したこと

認知症サポーターへの働きかけ、活動が軌道に乗るまでの流れ、認知症の人本人や地域の人へどう活動を広めていったか広報の方法など記載しています。

6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

講座時間や開催場所、講義の内容、講師の属性などを記載しています。

7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

<効果>

<課題>

8 チームのアピールポイント

9 今後の活動について

※1 チームオレンジの種類について

チームオレンジは、地域特性を鑑みて、以下の特徴的な3種類を参考に立ち上げます。
なお、自治体で数カ所立ち上げる場合、同一種類にする必要はありません。

(全国キャラバン・メイト連絡協議会発行「コーディネーター研修テキスト認知症サポーターチームオレンジ運営の手引き」から抜粋)

第1種類【共生志向の標準タイプ】地域の交流拠点（より所）を設置
<ul style="list-style-type: none">・サポーター等の活動の拠点であると共に、認知症の人と家族などが、いつでも訪れたいことができる普段からのより所とします。認知症の人の社会参加へのハードルが低くなります。・共に集うことにより、サポーターと認知症の人との「顔見知り」「なじみの関係」が成り立ちやすく、認知症状の変化や、困りごと等のマッチングと支援の迅速な対応が可能です。拠点は集まりやすい立地を選ぶことが重要です。・コーディネーターは、チームオレンジ立ち上げ後は、チームのスーパーバイザー的役割での参加となります。・サポーター以外（サポーター予備員）の多様な人々の参加を前提とする地域共生拠点への展望が望めます。
第2種類：【既存拠点活用タイプ】（既にある拠点の活用）
<ul style="list-style-type: none">・既に拠点がある「まちなかサロン」や「認知症カフェ」「介護予防教室」などをチームオレンジとして活用する方法です。・拠点の設置者や運営が介護事業者等の法人の場合は、住民サポーター主体の運営へシフトさせ、法人との協力関係の整理の必要があります。 この場合、まず、チームオレンジの三つの基本の整備から始めます。介護事業者はつながりの職域サポーターとして、あるいは住民サポーター（ステップアップ講座修了）として、法人は連携する関連機関として活動することなどの整理が必要になります。・既にサポーター主体で運営されているサロン等に関しては、チームオレンジ〇〇サロンへ移行できます。この場合であっても、サポーターのステップアップ講座修了と三つの基本の整備は必要です。・既存の活動とチームオレンジの活動を並行して行う場合の整理として、既存の活動をチームオレンジのメニューとして存続させる方法があります。
第3種類：【拠点を設置しない個別支援型タイプ】
<ul style="list-style-type: none">・活動拠点が確保できない場合にも実施できる方法です。・既存のサロンや認知症カフェなどへチームメンバーが訪問し、活動・支援することも考えられます。・集う拠点がないため、認知症の人の社会参加の機会が少なくなります。・サポーターや認知症の人、家族等との交流の機会が少ないため、困りごと支援のマッチングのための情報収集と調整に時間と手間が生じる可能性があります。・チームメンバー同士のコミュニケーションがとりづらいため、LINE やメール等を活用した運営が望まれます。・かつての「やすらぎ支援員」制度に類似しています。・チームリーダーの力量が求められ、チームオレンジ運営の難易度は高いと思われます。

※2 チームオレンジ三つの基本について

（全国キャラバン・メイト連絡協議会発行「チームオレンジコーディネーター研修テキスト 認知症サポーター運営の手引き」から抜粋）

- ①ステップアップ講座修了及び予定のサポーターでチームが組まれている
- ②認知症の人もチームの一員として参加している（認知症の人の社会参加）
- ③認知症の人と家族の困りごとを早期から継続して支援ができる。

千葉市 1

チーム名
【 ほっとくるカフェ 】

タイトル
～自分の思いや気持ちを素直に話せる場～

1 自治体情報（令和 4 年 12 月 31 日現在）

人口	高齢者人口	高齢化率	面積
977,016 人	256,822 人	26.3%	271.78K m ²
千葉市美浜区は こんなところ！ 人口：152,719 人 高齢化率：26.4%	<p>千葉市美浜区は千葉市の西側に位置し、区の全域が埋立てにより造成された地域です。千葉市の6区のなかでは最も小さい区ですが、全体的に平坦な地形であり、計画的にまちづくりが進められています。</p> <p>区内には、幕張メッセや千葉ロッテマリーンズのスタジアム、サッカー日本代表のトレーニング拠点である「夢フィールド」などがあり、身近なところでイベントやスポーツ観戦を楽しめます。東京湾を望む海岸からは富士山を見ることが出来ます。</p> <p>地域包括支援センターは5ヶ所、認知症カフェは9ヶ所です。</p>		

2 活動の概要

開始時期	令和 3 年 11 月
実施主体	<input type="checkbox"/> 市町村 <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター <input checked="" type="checkbox"/> 住民・ボランティア <input type="checkbox"/> 社会福祉協議会 <input type="checkbox"/> その他（ ）
活動内容	茶話会、ゲーム、体操、学習（ミニセミナー視聴）等
活動頻度	毎月第 2・4 火曜日 13 時 30 分～15 時 30 分
参加費	無料
運営財源	<input type="checkbox"/> 市町村からの委託 <input checked="" type="checkbox"/> 市町村からの補助 <input type="checkbox"/> 会費・参加費 <input type="checkbox"/> その他（ ） ※上記の財源 <input type="checkbox"/> 市町村一般財源 <input checked="" type="checkbox"/> 地域支援事業交付金 <input type="checkbox"/> その他（ ）

メンバー構成	代 表：認知症サポーターステップアップ講座修了者（家族） 副代表：認知症サポーターステップアップ講座修了者（民生委員） ○若年性認知症当事者1名○家族3名～ ○認知症サポーターステップアップ講座修了者 ○民生委員2名～ ○生活支援コーディネーター磯辺圏域（認知症地域支援推進員兼務）
チームオレンジ コーディネーターの属性	第2層生活支援コーディネーター（認知症地域支援推進員兼務）
チームオレンジの類型 ※1	<input type="checkbox"/> 第1類型（共生志向の標準タイプ） <input checked="" type="checkbox"/> 第2類型（既存拠点活用タイプ） <input type="checkbox"/> 第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） <input type="checkbox"/> その他
チームオレンジ 三つの基本について	<input checked="" type="checkbox"/> 3つの基本を満たしている <input type="checkbox"/> 3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている

3 チームオレンジ結成までの流れと経過

令和3年9月、新たにできる地域交流スペースの情報が生活支援コーディネーターに入り、スペース活用の説明会に認知症サポーターステップアップ講座修了者を呼んだことがきっかけで、生活支援コーディネーター、修了者、行政職員とで交流会を行う。

交流会のなかで、修了者から「介護者が孤立しない場所を作りたい」「認知症の方も活躍できる場を作りたい」との声があり、同年11月に認知症カフェを立ち上げた。

4 活動内容



（写真：ほっとくるカフェ開催の様子）

- ・「ほっとくるカフェ」という名称は開催3回目に参加者みんなで考えた。
- ・体験やイベントをすることも考えたが、当事者の「語りたいたい」という思いを聞き、どんな立場の人でも自分の話したいことを語れるカフェを目指している。


認知症のこと、
話してみませんか？
聞いてみませんか？

ほっとくるカフェ

認知症カフェを開いています。

認知症当事者や認知症の家族の方、
介護をしている方や介護経験のある方、
話し相手が欲しい方、
ここで、ほっと一息、しませんか。

認知症に関心のある方、どなたでも
ご参加お待ちしております。



会場：ウエルシア幕張西店内
ウエルカフェ（裏面に地図）
日時：毎月第2・第4火曜日
午後1時30分～3時30分
お問い合わせは
043-271-6525 市原
043-275-7357 加納

予約不要！！ いつでも、ご自由にお立ちよりください

5 活動を進めていく上で工夫したこと・配慮したこと

(1) 認知症サポーターへの働きかけ

行政から認知症サポーターステップアップ講座修了者名簿の情報提供を受け、修了者に声かけを行った。

認知症カフェを作ることを目的に修了者との交流会を開催したのではなく、あくまでも修了者のやりたいことを大切にし、自発的に意欲をもって取り組んでもらえるよう声かけを行った。

(2) 活動が軌道に乗るまでの流れ

活動が軌道にのるまでは代表者、副代表者と振り返りを行いながら試行錯誤して進めてきた。軌道にのった後は参加しないこともあるが、参加者の思いを大切にしている。

(3) 広報の方法

現在のメンバーは参加者が近所の方や知人を連れて集まった。

そのほか、チラシの配布や千葉市認知症カフェ一覧・千葉市認知症ナビへの掲載、口コミでの広報を行っている。

<ほっとくるカフェの代表・副代表が大切にしていること>

- ・その日の参加者の意見を大事にしなが、席のレイアウトや話す内容を決めていく。
- ・毎回自己紹介や近況報告等で発言の機会をつくり、お互いの関係性を深めていく。
- ・支援する側、される側という関係ではなく、対等な関係で参加できるようにする。

6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

ほっとくるカフェのメンバーのうち、3名が千葉市の認知症地域支援推進員の活動班“認知症サポーターステップアップ講座班”が開催している認知症サポーターステップアップ講座に参加。

講座に参加できないメンバーもいるため、認知症カフェ開催時に行政担当者からチームオレンジの目的を説明。

<講座の概要>

- ・開催時間：4時間
- ・開催場所：各区保健福祉センター（6区）
- ・講師：認知症地域支援推進員（地域包括支援センター職員）
- ・内容：千葉市の認知症施策、認知症の基礎知識、コミュニケーションの基礎と実践、チームオレンジについて～受講修了後の活動紹介～、ボランティア登録について

7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

<効果>

- ・上記「5」を大切に活動することで、支援する側、支援される側という概念を超えて参加者みな「仲間」という意識を持てるようになった。
- ・若年性認知症当事者の話を介護者が聞くことで、自分の介護を振り返るきっかけとなり、気持ちを整理することができるようになった。

<課題>

- ・新しい参加者が来ないことが悩みだったが、今のメンバーで続けていくことを大切にしていきたいと思うようになった。

8 チームのアピールポイント

認知症当事者、介護者（家族）、民生委員が中心メンバーで、そこに行政や地域包括支援センターの職員も参加しながらカフェを開催している。

色々な立場の人がいて、カフェでは毎回全員が一度は話をするようにしているので、お互いの状況や考え方の違いを理解し合う関係性を築けている。

9 今後の活動について

1年以上一緒にカフェを運営してきた仲間との関係を大事にしながら、新しい参加者が来てくれた時にはそれぞれの経験を活かして、アドバイスしたり、傾聴し寄り添っていくような活動になっていくように、多方面へ周知していく。

別の認知症カフェを見学したいとの話もあるため、実現に向けて検討していきたい。

千葉市 2

チーム名
【 Green カフェ 】

タイトル
～その人らしさを大切に～

1 自治体情報（令和 4 年 12 月 31 日現在）

人口	高齢者人口	高齢化率	面積
977,016 人	256,822 人	26.3%	271.78K m ²
千葉市稲毛区は こんなところ！ 人口：157,905 人 高齢化率：27.0%	<p>千葉市稲毛区は千葉市の北西部に位置し、区域の大半は住宅地です。千葉大学をはじめとする高等教育機関や研究機関が集中していることから、恵まれた教育環境を生かした文教のまちづくりを進めています。</p> <p>また、中心部には、県総合スポーツセンターや宮野木スポーツセンター、園生の森公園、いきいきプラザ・いきいきセンターなど、スポーツ・レクリエーションの拠点が数多くあります。</p> <p>地域包括支援センターは 5 センター+1 出張所、認知症カフェは 8 ヶ所です。</p>		

2 活動の概要

開始時期	令和 3 年 5 月
実施主体	<input type="checkbox"/> 市町村 <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター <input checked="" type="checkbox"/> 住民・ボランティア <input type="checkbox"/> 社会福祉協議会 <input type="checkbox"/> その他（ ）
活動内容	茶話会、本人ミーティング、本人ミーティングで出た「やりたいこと」を叶える活動（園芸、音楽鑑賞、ハンドベル演奏等）
活動頻度	毎月第 1 土曜日 13 時 30 分～15 時
参加費	無料
運営財源	<input type="checkbox"/> 市町村からの委託 <input type="checkbox"/> 市町村からの補助 <input type="checkbox"/> 会費・参加費 <input checked="" type="checkbox"/> その他（ ） ※上記の財源 <input type="checkbox"/> 市町村一般財源 <input type="checkbox"/> 地域支援事業交付金 <input checked="" type="checkbox"/> その他（ ）

メンバー構成	<p>主催：介護予防の会 輝</p> <p>○認知症の人とその家族 ○認知症サポーターステップアップ講座修了者3名～ ○生活支援コーディネーター園生圏域 (認知症地域支援推進員兼務)</p>
チームオレンジ コーディネーターの属性	第2層生活支援コーディネーター (認知症地域支援推進員兼務)
チームオレンジの類型 ※1	<input type="checkbox"/> 第1類型（共生志向の標準タイプ） <input checked="" type="checkbox"/> 第2類型（既存拠点活用タイプ） <input type="checkbox"/> 第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） <input type="checkbox"/> その他
チームオレンジ 三つの基本について	<input checked="" type="checkbox"/> 3つの基本を満たしている <input type="checkbox"/> 3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている

3 チームオレンジ結成までの流れと経過

平成28年2月：認知症カフェ「Green カフェ」開始。

令和3年5月、行政からの紹介で傾聴ボランティア経験のある認知症サポーターステップアップ講座修了者1名がボランティアとして加わり、同月、カフェで「本人ミーティング」を開催。

本人ミーティングでは「Green カフェでやってみたいこと」をテーマに参加者が自由に発言し、翌月以降、その内容を叶える活動を実施することになった。

4 活動内容



(写真左：イラストの得意な修了者が当日の会話をイラストで表現)

(写真右：本人ミーティングで出た「植物を育てたい」を実現した写真)

チームオレンジ活動の一環として、認知症の方本人のやりたいことをお聞きし、認知症カフェの時間を利用して、認知症の方本人と協力し実現に向けて活動。

5 活動を進めていく上で工夫したこと・配慮したこと

(1) 認知症サポーターへの働きかけ

行政から圏域の認知症サポーターステップアップ講座修了者を紹介してもらい、修了者に声かけを行った。参加者の一人として楽しんで参加してもらい、認知症の方の隣に自然に座り声かけをしたり、傾聴してもらったりしている。

(2) 広報の方法

地域包括支援センターからの紹介やチラシ配布、千葉市認知症カフェ一覧・千葉市認知症ナビへの掲載、口コミでの広報を行っている。

<主催者が大切にしていること>

- ・参加人数にはこだわらず、1人でも「ここに来てよかった」と言ってもらえる場所となること。
- ・認知症の方のやりたいことを一緒にできる場所となること。
- ・みんなで楽しめる場所になること。

6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

Green カフェのメンバーのうち、3名が千葉市の認知症地域支援推進員の活動班“認知症サポーターステップアップ講座班”が開催している認知症サポーターステップアップ講座に参加。

<講座の概要>

- ・開催時間：4時間
- ・開催場所：各区保健福祉センター（6区）
- ・講師：認知症地域支援推進員（地域包括支援センター職員）
- ・内容：千葉市の認知症施策、認知症の基礎知識、コミュニケーションの基礎と実践、チームオレンジについて～受講修了後の活動紹介～、ボランティア登録について

7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

<効果>

- ・本人ミーティングをきっかけにチームオレンジとしての活動を始めたことで、認知症の方を含め、参加者から思い出ややりたい事などをお聞きする機会が増え、参加者のことをより深く知ることができるようになり、カフェの運営企画にも役立てている。

<課題>

- ・新型コロナウイルス感染症の影響で積極的な周知をしていなかったこともあり、参加者が減少した。感染対策をしながら、参加者増加のため周知を行いたいと思っている。

8 チームのアピールポイント

認知症サポーターステップアップ講座を受けた介護経験者、栄養士、傾聴ボランティアや介護職経験者で構成されたチームで、和気あいあいとした雰囲気の中で楽しい時間を過ごせるメンバーである。

認知症の方、ご家族の方の参加をお待ちしています。

9 今後の活動について

参加された方が「ここがあってよかった」と思っただけの居場所になれるように活動していく。

千葉市 3

チーム名
【 気楽に桜木 】

タイトル
～「できたらいいな」をみんなで実現していきたい～

1 自治体情報（令和 4 年 12 月 31 日現在）

人口	高齢者人口	高齢化率	面積
977,016 人	256,822 人	26.3%	271.78 km ²
千葉市若葉区はこんなところ！ 人口：147,717 人 高齢化率：30.8%	<p>若葉区は千葉市の北東部に位置し、面積は 6 区内で一番広く約 84km²です。都心からの通勤圏内にありながら、緑も多く残る、自然と人の調和を目指している地域です。</p> <p>地形は東西に広がり、西部には 2017 年に国の特別史跡に指定された日本最大級の貝塚「加曽利貝塚」や、美しい立ち姿で有名になったレッサーパンダの風太くんのいる千葉市動物公園があります。</p> <p>東部は、公共の交通手段は路線バスとコミュニティバスがありますが、移動手段としては不十分で、利便性を向上する必要があり、高齢化率がより高くなっている地域でもあります。また東部には、若葉区の魅力でもある「自然豊かなロケーションでグリーンツーリズムが楽しめるエリア」として、泉自然公園、富田さとにわ耕園、ウシノヒロバなどがあり、谷津田の保全にも力を入れている地域です。</p> <p>地域包括支援センターは 5 センター、認知症カフェは 6 ヶ所です。</p>		

2 活動の概要

開始時期	令和 4 年 3 月
実施主体	<input type="checkbox"/> 市町村 <input checked="" type="checkbox"/> 地域包括支援センター <input type="checkbox"/> 住民・ボランティア <input type="checkbox"/> 社会福祉協議会 <input type="checkbox"/> その他（ ）
活動内容	茶話会、体操、音楽鑑賞、合唱等
活動頻度	毎月第 1 土曜日（13 時 30 分～15 時 30 分） 毎月第 3 水曜日（10 時 00 分～12 時 00 分）
参加費	無料
運営財源	<input type="checkbox"/> 市町村からの委託 <input type="checkbox"/> 市町村からの補助 <input type="checkbox"/> 会費・参加費 <input checked="" type="checkbox"/> その他（ ） ※上記の財源 <input type="checkbox"/> 市町村一般財源 <input type="checkbox"/> 地域支援事業交付金 <input checked="" type="checkbox"/> その他（ ）

メンバー構成	<p>主催：あんしんケアセンター桜木 (あんしんケアセンター＝地域包括支援センター)</p> <p>○認知症の人とその家族 ○認知症サポーターステップアップ講座修了者6名～ ○地域包括支援センター（あんしんケアセンター） ○生活支援コーディネーター桜木圏域 (認知症地域支援推進員兼務)</p>
チームオレンジ コーディネーターの属性	第2層生活支援コーディネーター (認知症地域支援推進員兼務)
チームオレンジの類型 ※1	<input type="checkbox"/> 第1類型（共生志向の標準タイプ） <input checked="" type="checkbox"/> 第2類型（既存拠点活用タイプ） <input type="checkbox"/> 第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） <input type="checkbox"/> その他
チームオレンジ 三つの基本について	<input checked="" type="checkbox"/> 3つの基本を満たしている <input type="checkbox"/> 3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている

3 チームオレンジ結成までの流れと経過

令和3年12月～2月、行政より認知症サポーターステップアップ講座修了者の情報提供を受け、修了者へ運営支援の協力依頼をし、同年3月に話し合いを実施後、第1回目の認知症カフェ「気楽に桜木」を開催。
以降、地域包括支援センターとボランティアとの協働でカフェを運営している。

4 活動内容

(写真左：童謡「紅葉」の歌詞（穴埋め）を書くコーディネーター）
(写真右：介護予防体操の様子）

毎回内容やテーマを決めず、参加者の方の「やりたいこと」を聞いて当日の活動内容を決めている。

5 活動を進めていく上で工夫したこと・配慮したこと

(1) 認知症サポーターへの働きかけ

行政から圏域の認知症サポーターステップアップ講座修了者を紹介してもらい、修了者に声かけを行った。連絡は SNS (LINE) を活用し、参加していないメンバーにも参加の状況を共有している。

無理をせず、参加できるときに参加することを大切にしている。

(2) 広報の方法

地域包括支援センターからの紹介やケアマネジャー、デイサービスへのチラシ配布、千葉市認知症カフェ一覧・千葉市認知症ナビへの掲載、口コミでの広報を行っている。

<主催者が大切にしていること>

- ・名称のごとく、誰もが気軽に立ち寄れるカフェとなること。
- ・参加者のやりたいことができるようなカフェとなること。
- ・あいている時間内であれば、出入り自由。ボランティアにとっても有意義な時間になること。

6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

気楽に桜木のメンバーのうち、6名が千葉市の認知症地域支援推進員の活動班“認知症サポーターステップアップ講座班”が開催している認知症サポーターステップアップ講座に参加。

<講座の概要>

- ・開催時間：4時間
- ・開催場所：各区保健福祉センター（6区）
- ・講師：認知症地域支援推進員（地域包括支援センター職員）
- ・内容：千葉市の認知症施策、認知症の基礎知識、コミュニケーションの基礎と実践、チームオレンジについて～受講修了後の活動紹介～、ボランティア登録について

7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

<効果>

認知症サポーターステップアップ講座修了者がカフェの企画・運営に積極的に参画したり、近所の方を誘ったりするようになった。

チラシを様々なところで配布することで、興味をもって「ちょっと参加してみました」と、初めて参加される方が毎月1~3名くらいいる。少しずつ周知が広がっているように感じる。

デイサービスを利用している参加者もいるが、デイサービスとは違う空間で刺激のある時間を過ごすことができている。

<課題>

大勢のなかで話すことが苦手な人にとっては、必ずしも有益な場所にはなっていない。そのような方と気持ちを語り合える関係をもてたら、もっといい場所になるのではないか。

8 チームのアピールポイント

「今日も楽しかった」で一日が終われるように、おだやかに、ゆるやかに、誰もが無理をしないで続けられるよう、心がけている。

9 今後の活動について

ひとり一人の思いや気持ちを聞いて、「できたらいいな」をみんなで実現していきたい。具体的には、会場まで一人で来られない方の同行。また、温かい季節に近隣を少し歩いて季節を感じられるような「ちょっと散歩」などが提案されている。

松戸市 1

チーム名 【 オレンジ協力隊 】
タイトル 【 認知症の人と共に 】

1 自治体情報（令和4年12月31日現在）

人口	高齢者人口	高齢化率	面積
497,120人	128,930人	24.94%	61.38K㎡
松戸市は こんなところ！	<p>都心から20キロメートル圏に位置し、千葉県の東葛地域（北西部）の一翼に位置しています。</p> <p>全市域が台地、斜面地、低地の連続によって構成され、坂道や階段が多い特徴があります。</p>		

2 活動の概要

開始時期	令和1年10月
実施主体	<input type="checkbox"/> 市町村 <input checked="" type="checkbox"/> 地域包括支援センター <input type="checkbox"/> 住民・ボランティア <input type="checkbox"/> 社会福祉協議会 <input type="checkbox"/> その他（ ）
活動内容	傾聴訪問、体操教室・街カフェ・地域交流会への参加
活動頻度	月に1回～3回
参加費	0円
運営財源	<input type="checkbox"/> 市町村からの委託 <input type="checkbox"/> 市町村からの補助 <input type="checkbox"/> 会費・参加費 <input checked="" type="checkbox"/> その他（財源なし ） ※上記の財源 <input type="checkbox"/> 市町村一般財源 <input type="checkbox"/> 地域支援事業交付金 <input type="checkbox"/> その他（ ）
メンバー構成	オレンジ協力員 認知症当事者 地域包括支援センター職員
チームオレンジ コーディネーターの属性	地域包括支援センター職員
チームオレンジの類型 ※1	<input type="checkbox"/> 第1類型（共生志向の標準タイプ） <input checked="" type="checkbox"/> 第2類型（既存拠点活用タイプ） <input type="checkbox"/> 第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） <input type="checkbox"/> その他
チームオレンジ三つの基本 について ※2	<input checked="" type="checkbox"/> 3つの基本を満たしている <input type="checkbox"/> 3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている

3 チームオレンジ結成までの流れと経過

地域包括支援センターの働きかけにより、オレンジ協力員が地域個別ケア会議に参加し、認知症の人の地域課題を把握した。地域個別ケア会議で確認された課題として、認知症の人は予定を忘れてしまい、ひとりで地域活動等に参加することが難しい。

又、自分の思いを人に話す機会が少ないということから、個別支援を開始した。

4 活動内容

・オレンジ協力員が認知症高齢者宅を定期的に個別訪問し、傾聴や散歩支援を行う。
・パトウォーク（認知症高齢者、オレンジ協力員、地域包括支援センター職員がチームになり、公共機関やひとりで外出が困難な高齢者、認知症高齢者宅等を訪問し、チラシ等で詐欺防止や体操教室の開催等、情報発信を行う。）

・地域交流会に参加し、テーマに沿った情報交換を行う。（参加者：ひとりで外出が困難な高齢者、認知症高齢者、オレンジ協力員、地域包括支援センター職員）



5 活動を進めていく上で工夫したこと・配慮したこと

・認知症サポーター養成講座を受講した人に、地域包括支援センターからオレンジ協力員の登録を案内し、登録者には、センターが開催する定例会（毎月）へ案内する。他、個別に関心のある活動へ案内する。

・定例会では、活動の実施方法を話し合い、実施後の振り返りを繰り返し行い、主体的に活動できるようにサポートしている。

・地域の人にオレンジ協力員の活動を周知する為、活動を紹介するチラシを作成し、民生委員や地域の高齢者向けボランティアの行う定例会で配布したり、パトウォークの際に地域に広くポスティングを行った。

6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

令和4年度 オレンジ協力員ステップアップ研修

場所【小金市民センター】 時間：10：00～（40分から1時間程度）

研修① 6/15 講座 『認知症と高齢者虐待』（講師：地域包括職員）

研修② 8/17 民生委員とのグループワーク

『地域の中での認知症支援の実態を知る』

研修③ 10/19 講演 『認知症介護について』～経験談～

（講師：認知症介護経験のある家族）

研修④ 12/21 講演 『認知症の人への接し方』（講師：グループホーム管理者）

研修⑤ 2/15 講座 『認知症の理解（病気の特徴）』（講師：地域包括職員）

7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

<効果>

- ・認知症に対する理解が深まった。
- ・コミュニケーションの大切さへの理解が深まった。
- ・オレンジ協力員同士の仲間意識が芽生えた。
- ・認知症が他人ごとではない、身近な問題として捉えられるようになった。

<課題>

- ・地域包括支援センターが管轄する範囲が広く、活動拠点が広く遠くなる。
- ・高齢者が多いオレンジ協力員には移動が大変。
- ・エリアを分けて活動すると地域包括職員と一緒に活動するのに移動が大変。

8 チームのアピールポイント

一緒にいると、優しい気持ちになれる仲間。

9 今後の活動について

- ・オレンジ協力員の活動をより主体的に進めるため、チームごとにリーダーを作っていきたい。
- ・活動拠点を増やし、活動しやすいエリアで活動できるようにしていきたい。

松戸市 2

チーム名 【 松戸市矢切地区チームオレンジ協力員 】
タイトル 【 サロン「わたし」とオレンジパトウォーク 】

1 自治体情報（令和4年12月31日現在）

人口	高齢者人口	高齢化率	面積
497,120人	128,930人	24.94%	61.38K㎡
松戸市は こんなところ！	<p>都心から20キロメートル圏に位置し、千葉県東葛地域（北西部）の一翼に位置しています。</p> <p>全市域が台地、斜面地、低地の連続によって構成され、坂道や階段が多い特徴があります。</p>		

2 活動の概要

開始時期	令和2年9月
実施主体	<input type="checkbox"/> 市町村 <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター <input checked="" type="checkbox"/> 住民・ボランティア <input type="checkbox"/> 社会福祉協議会 <input type="checkbox"/> その他（ ）
活動内容	2地区に分けてパトロール、普及啓発、フレイル予防
活動頻度	週1回
参加費	無料
運営財源	<input type="checkbox"/> 市町村からの委託 <input type="checkbox"/> 市町村からの補助 <input type="checkbox"/> 会費・参加費 <input checked="" type="checkbox"/> その他（財源なし） ※上記の財源 <input type="checkbox"/> 市町村一般財源 <input type="checkbox"/> 地域支援事業交付金 <input type="checkbox"/> その他（ ）
メンバー構成	平成29年10月に立ち上がったサロン「わたし」の参加されていたオレンジ協力員や地域住民、認知症介護者、認知症当事者、民生委員・児童委員等。
チームオレンジ コーディネーターの属性	地域包括支援センター職員
チームオレンジの類型 ※1	<input checked="" type="checkbox"/> 第1類型（共生志向の標準タイプ） <input type="checkbox"/> 第2類型（既存拠点活用タイプ） <input type="checkbox"/> 第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） <input type="checkbox"/> その他
チームオレンジ三つの基本 について ※2	<input checked="" type="checkbox"/> 3つの基本を満たしている <input type="checkbox"/> 3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている

3 チームオレンジ結成までの流れと経過

平成29年10月に高齢者の居場所作りとして立ち上がったサロン「わたし」のメンバーからコロナ渦におけるフレイル防止や認知症予防、地域交流を目的としてオレンジパトウォークの活動が開始される。

介護相談や早期相談や早期支援も念頭に地域包括職員も毎回参加することとなる。

4 活動内容

毎週1回パトロールコースを2種類設け、1時間を目途に参加者で地域パトロールを行う。自身のフレイル予防や地域の防犯、各種イベントや地域包括支援センターのPRのためのチラシポスト投函などを行う。



5 活動を進めていく上で工夫したこと・配慮したこと

参加者の意見を聴取しパトロールコースの変更や認知症の当事者やその介護者も参加できるようその都度、競技し進めて来た。

また、身体状態が悪くいらっしゃる参加者も安心して参加できるよう時にはロングコース、ショートコース等、身体の負担のかけ方を軽減できるようなコースを設定した。

6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

令和4年4月25日に矢切公民館2階会議室にて認知症の方への対応方法やパトウォークの改善点の共有などを目的にステップアップ講座内で検討を行った。

講師、司会は地域包括支援センター職員が進行し介護者の集いやサロン活動からパトウォークへ繋げるための連携の強化を行った。その後、実際介護者のつどい参加者から認知症本人とその家族のパトウォーク参加に至った。

7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

<効果>

コロナ渦でも参加しやすい事業として参加者のフレイル予防や地域交流、普及啓発など幅広い目的で実施できた。

また、認知症当事者も参加し介護サービス以外の地域とのつながり、外出の機会も創出できた。

<課題>

整形系の疾患や心臓疾患などを抱える参加者はどうしても歩行スピードや身体にかかる負担が大きいため他の参加者についていけなくなる場面が多い。

コースを2種類用意するなど対応はその都度参加者とともに変化をつけるが職員派遣の人員がさらにかかり、自主化等への方向性付けの難易度が上がっている。

8 チームのアピールポイント

ご自身の介護予防や地域とのつながりを積極的に持ちたいと感じている方々が多く、失敗することもあるが活気がある。また、認知症当事者や家族への配慮やハンデがある方への配慮も多くしていただき、新規の方でも参加しやすい雰囲気がある。

9 今後の活動について

参加者主体の運営を心掛けながら認知症当事者やその家族など、新規で参加される方々が参加しやすいようなコース配置や対応も含めてオレンジ協力員の方々への認知症の方への対応等のスキルアップを図っていきたい。

佐倉市

チーム名 【 】
タイトル 【 頼りになるチームオレンジを目指して！ 】

1 自治体情報(令和5年1月31日現在)

人口	高齢者人口	高齢化率	面積
171,238 人	56,879 人	33.2%	103.69 K m ²
佐倉市は こんなところ！	<p>千葉県北部、下総台地の中央部に位置し、都心から 40 km、成田国際空港へは 15 km の距離にあります。市北部には印旛沼が広がり、印旛沼周辺や佐倉城址周辺、また東部・南部の農村地帯などには豊かな自然が残っています。</p> <p>佐倉城跡は、城址公園として整備され、佐倉連隊の置かれた地には、国立歴史民俗博物館が建てられています。その他にも、武家屋敷や旧堀田邸、佐倉順天堂記念館など、歴史の舞台となった場所が多く残ります。</p> <p>佐倉城本丸跡の桜や城址公園の菖蒲のほか、印旛沼のほとりにあるふるさと広場のチューリップや向日葵、コスモスなど、季節ごとに自然の美に囲まれたカラフルな大地が佐倉の特色です。広場内にはシンボルである本格的オランダ風車「リーフデ」が風の力で雄大に回っています。（佐倉市 HP より）</p>		

2 活動の概要

開始時期	令和 3 年 11 月 (ステップアップ講座を開催し、チームオレンジが結成された)
実施主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村 <input checked="" type="checkbox"/> 地域包括支援センター <input type="checkbox"/> 住民・ボランティア <input type="checkbox"/> 社会福祉協議会 <input type="checkbox"/> その他()
活動内容	<p>現在 51 名のメンバーが、地域包括支援センターと協力して地域で活動中。</p> <p>【活動内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護者教室で、認知症の方の付き添いや見守り ・オレンジカフェで、認知症の方や家族の付き添い、見守り、作業のお手伝い ・介護予防教室、介護予防の通いの場に参加している認知症の方の見守り、声かけ、お誘い ・「認知症サポーター養成講座」の開催のお手伝い ・各地域で開催される「認知症高齢者声かけ訓練」に参加など



- ・認知症高齢者声かけ訓練にスタッフとして参加
(道に迷って声をかけられる役の方の付き添い、補助)

←オレンジカフェの参加者全員で佐倉市のケアパス「認知症すごろく」を行っている様子です。

チームオレンジのメンバーが各テーブルについて、認知症の人をさりげなくサポートしています。参加者の表情やちょっとした言葉などを見逃さず、楽しんで過ごしていただけるよう心掛けています。



←右手前で腕章をつけているのがチームオレンジのメンバーです。
迷子役の方（中央で帽子をかぶっている女性）とペアを組んで、声をかける参加者の様子を見守ったり、上手に声をかけられた方をねぎらったりしてサポートします。

- ・9月の世界アルツハイマー月間に合わせ、市役所や図書館、駅、公園の売店などに設置した啓発コーナーに飾るため、認知症に関するイラストやメッセージを記載したオレンジ色のうちわを作成



←チームオレンジのメンバーで集まり、啓発用のうちわを作成。
手書きのイラストやメッセージのほか、季節の花の絵や折り紙などできれいに飾り付けました♪
作ったうちわは、駅や図書館の啓発コーナーでひととき注目を浴びていました。

5 活動を進めていく上で工夫したこと・配慮したこと

もともとオレンジカフェのお手伝いや地域で通いの場の運営等で活動しているメンバーが多いため、チームオレンジ結成後も地域包括支援センターと協力しながら各自の活動を継続するなかで、認知症の人や家族への個別支援(ゆっくりお話を聞いたり、今後の活動に生かせるような本人の得意なことを見つけるなど)を充実させられるよう取り組んでいる。

また、各地域の活動状況を共有し、メンバー同士の交流を図るために、令和4年11月に第1期生、2期生合同で交流会を開催。お互いの活動報告や今後取り組んでみたいことなどについて話し合った。

6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

令和3年11月に第1回、令和4年10月に2回目の講座を開催。(内容は同じ)

【内容】

- ・ 佐倉市の認知症施策、社会資源(市職員、認知症地域支援推進員)
- ・ 認知症の基礎知識の振り返り(認知症地域支援推進員)
- ・ 認知症の方への意思決定支援(認知症ケア専門士)
- ・ パーソンセンタードケア(認知症ケア専門士)
- ・ 認知症の人への対応ロールプレイ(認知症ケア専門士、キャラバンメイト)
- ・ チームオレンジの活動報告(認知症地域支援推進員 ※2回目の講座から)

7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

<効果>

ステップアップ講座を受講したことで、認知症の方への対応についてより一層理解が深まった。また、カフェなどでの活動の際は、「チームオレンジの〇〇さん」と紹介することにより、チームオレンジの一員としての意識が高まった。(チームオレンジの知名度も上がる!)

認知症の方への対応においては、特に本人の意思決定支援に着目し、本人がやりたいことをみつけて、一緒に進めて行こうという視点のもと今後の活動につなげている。

<課題>

認知症の当事者を含む新規メンバーの獲得と、当事者の受け入れ態勢の整備

8 チームのアピールポイント

もともと介護予防ボランティアや民生委員など、地域で活動していたメンバーが主であり、メンバー同士、またメンバーをサポートする認知症地域支援推進員との連携がとれているため、チームオレンジ活動に対する理解・協力を得られやすく、フットワークも軽快。

認知症の有無にかかわらず高齢者への対応経験も豊富な方が多いことから、オレンジカフェなどで認知症の当事者や家族のちょっとした悩み、困りごとをキャッチすると、さりげなく寄り添い、お話を伺うことができる。

地域で気になる方を見つけた際も地域包括支援センターと協力して見守りや必要時の支援につなげやすい体制が取れている。

9 今後の活動について

当事者のやりたいことを引き出し、家族もチームオレンジもみんなと一緒に楽しめるイベントや居場所づくりにつなげていきたい。(お出かけ、交流会など)

柏市

チーム名 【 かしわオレンジフレンズ 】
タイトル 【身近な地域包括支援センターに登録し、地域の特性に合わせた活動を継続 】

1 自治体情報（令和5年1月31日現在）

人口	高齢者人口	高齢化率	面積
433,598人	112,004人	25.83%	114.74K m ²
柏市は こんなところ！	千葉県の北西部に位置し、都心から電車で30分程度の距離にあり、典型的なベッドタウンとして人口が増加したまちです。 後期高齢者数が前期高齢者数を上回っており、今後は、認知症高齢者数の増加が見込まれます。		

2 活動の概要

開始時期	平成29年4月
実施主体	<input type="checkbox"/> 市町村 <input checked="" type="checkbox"/> 地域包括支援センター <input checked="" type="checkbox"/> 住民・ボランティア <input type="checkbox"/> 社会福祉協議会 <input type="checkbox"/> その他（ ）
活動内容	認知症カフェ、介護者交流会、オレンジ散歩、オレンジフレンズ交流会、見守りパトロール
活動頻度	年2回～3回/月 ※登録する地域包括支援センターによる
参加費	無料又は参加者負担
運営財源	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村からの委託 <input checked="" type="checkbox"/> 市町村からの補助 <input checked="" type="checkbox"/> 会費・参加費 <input type="checkbox"/> その他（ ） ※上記の財源 <input type="checkbox"/> 市町村一般財源 <input checked="" type="checkbox"/> 地域支援事業交付金 <input type="checkbox"/> その他（ ）
メンバー構成	<ul style="list-style-type: none"> ・かしわオレンジフレンズ（認知症サポーター養成講座修了者） ・認知症地域支援推進員 ・本人 ・介護者
チームオレンジ コーディネーターの属性	認知症地域支援推進員
チームオレンジの類型 ※1	<input type="checkbox"/> 第1類型（共生志向の標準タイプ） <input checked="" type="checkbox"/> 第2類型（既存拠点活用タイプ） <input type="checkbox"/> 第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） <input type="checkbox"/> その他
チームオレンジ三つの基本 について ※2	<input checked="" type="checkbox"/> 3つの基本を満たしている ※地域包括により異なる <input checked="" type="checkbox"/> 3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている

3 チームオレンジ結成までの流れと経過

- ・認知症サポーター養成講座の修了者のうち、ボランティアなど認知症の理解に向けた普及啓発活動を希望するかたを「かしわオレンジフレンズ」として、地域包括支援センターに登録。
- ・地域包括支援センターから定期的にボランティアのお知らせを送付し、希望する活動に参加。
- ・毎年、「かしわオレンジフレンズ」を対象にフォローアップ研修を開催。

4 活動内容（地域包括支援センターに紐づき活動）

- ・認知症カフェ（一部は自主的に活動）
- ・認知症介護者交流会 ・オレンジ散歩
- ・認知症徘徊模擬訓練のサポート
- ・認知症サポーター養成講座での補助
- ・アルツハイマーデー啓発イベント



5 活動を進めていく上で工夫したこと・配慮したこと

- ・かしわオレンジフレンズが自身の居住地を所管する地域包括支援センターに登録することで、気軽に活動できるような仕組みとした。
- ・NPO 法人や自主グループは地域包括支援センターと連携して活動しているので、地域包括支援センターを介して自分たちの活動をかしわオレンジフレンズに紹介することができ、認知症に携わる人材の循環が生まれている。
- ・市は「かしわオレンジフレンズ活動補償保険」加入により、活動を後押ししている。

6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

開催状況：年1回、参集とオンライン(Zoom)のハイブリット形式で実施。

講座内容：講義「認知症の人の支援について」

講師 認知症看護認定看護師，千葉県認知症コーディネーター，柏市グループホーム連絡会会長など認知症専門職から1名

毎年1地域、認知症地域支援推進員よりかしわオレンジフレンズの活動報告

7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

効果：カフェなどに参加された本人と顔なじみになり、地域で行われる別の活動にも本人を誘うなど社会参加につながっている。

課題：地域包括支援センターによっては、年間数回の活動に留まっている。

8 チームのアピールポイント

かしわオレンジフレンズは、自身の居住地を管轄する地域包括支援センターに登録していただくことで気軽に参加でき、普段から顔の見える関係になれることで、認知症になっても住み慣れた地域で暮らせるよう、地域でゆるやかに見守る体制づくりにつながっている。

9 今後の活動について

新型コロナウイルス感染症禍では、社会参加につながるような屋外での活動に変更するなどそれぞれ工夫して、活動を継続してきた。地域包括支援センターを通じて行う認知症サポーター養成講座で、受講者に向けて「かしわオレンジフレンズ」への参加を呼びかけ、引き続き、身近な地域での活動を通して、認知症への理解に向けた普及活動を行っていく。

鎌ヶ谷市

チーム名 【チームオレンジ】
タイトル 【広げようロバ作りの輪、みんなの輪】

1 自治体情報（令和4年9月30日現在）

人口	高齢者人口	高齢化率	面積
109,696人	31,405人	28.63%	21.08平方K㎡
鎌ヶ谷市は こんなところ！	<p>鎌ヶ谷市は、千葉県の北西部、北総台地のなだらかな緑の大地の上に広がる都市です。</p> <p>市内には、東武野田線・新京成線・北総線・成田スカイアクセス線の鉄道4線と道路網が発達しており、都心から25キロメートル圏内にあることから、首都近郊の住宅都市として発展してきました。</p> <p>一方、こうした発展の中にありながら、豊かな農地や緑の環境を持ち、梨の名産地としても全国にその名を知られています。</p>		

2 活動の概要

開始時期	令和4年1月
実施主体	<input type="checkbox"/> 市町村 <input checked="" type="checkbox"/> 地域包括支援センター <input checked="" type="checkbox"/> 住民・ボランティア <input type="checkbox"/> 社会福祉協議会 <input checked="" type="checkbox"/> その他（オレンジサポート員、認知症カフェ、認知症地域支援推進員）
活動内容	ロバのマスコット作りを通じた居場所作りと認知症普及啓発活動
活動頻度	月1回
参加費	なし
運営財源	<input type="checkbox"/> 市町村からの委託 <input type="checkbox"/> 市町村からの補助 <input type="checkbox"/> 会費・参加費 <input type="checkbox"/> その他（ ） ※上記の財源 <input type="checkbox"/> 市町村一般財源 <input checked="" type="checkbox"/> 地域支援事業交付金 <input type="checkbox"/> その他（ ）
メンバー構成	オレンジサポート員、住民、認知症の本人、地域包括支援センター職員、認知症地域支援推進員、医療・介護関係職員
チームオレンジ コーディネーターの属性	
チームオレンジの類型 ※1	<input type="checkbox"/> 第1類型（共生志向の標準タイプ） <input checked="" type="checkbox"/> 第2類型（既存拠点活用タイプ）

	<input type="checkbox"/> 第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） <input type="checkbox"/> その他
チームオレンジ三つの基本について ※2	<input checked="" type="checkbox"/> 3つの基本を満たしている <input type="checkbox"/> 3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている

3 チームオレンジ結成までの流れと経過

令和4年1月に新たにオレンジサポート員となった方が住む築40年を超える住宅団地を中心に、コロナ禍中の閉じこもりがちな生活と、交通の便が悪い立地条件などを踏まえて、歩いて少人数で通える場所（サポート員の自宅）でロバのマスコット作りをスタート。

『登下校する小学生のランドセルにロバのマスコットをつけてもらうのが夢』というメンバーの言葉に、認知症地域支援推進員が関係者への周知活動をサポートし、輪が広がる。

活動拠点も住宅団地内にある市の事業の高齢者の交流の場である老人憩いの家の集会室に移り、毎月1回の定期活動化と日頃の自宅での作成活動にも発展。

時には認知症の方や介護者も参加される機会もあり、近隣施設や地域のスポーツ団体の監督から材料の寄贈や、管理事務所の方がロバを作ってくれたり、周囲の理解や協力も広がり出している。

また、別の地区のオレンジサポート員と認知症地域支援推進員が認知症カフェの開催時間に集まりロバを作り、交流の輪を広げて普及・啓蒙活動を行うことになった。



4 活動内容

ロバ作りをきっかけとして定期的に集まり、認知症の普及啓発活動を行う。地域で認知症のような症状がある方、または認知症の本人を誘って一緒にロバ作りをすることで地域の輪を広げて顔の見える関係づくりを行う。多職種がメンバーになることで、困りごとがあった際に必要な支援に繋げることができる体制を作る。

作成したロバは認知症サポーター養成講座を受講した小学生や高齢者と関わりのある民生委員等にお渡しし、身に付けていただくことで認知症の普及啓発活動や見守りをしていただいている。

カフェを活動拠点としているオレンジサポート員はカフェのイベントに参加しながら、認知症の本人・その家族の話を傾聴し、一緒にロバ作りを楽しんで交流を行い、地域に根差した関係づくりを行っている。

5 活動を進めていく上で工夫したこと・配慮したこと

住民の主体的な活動とペースを尊重し、ロバを作ることだけが目的にならないように、認知症地域支援推進員と一緒に参加し、普及・啓発活動を行った。

市内で、芽生えた活動を他のオレンジサポート員や推進員で共有できるように、報告会と活動のチラシを作り発送している。

推進員が認知症に関して興味のあるような商店や住民活動のキーマンに声掛けし、ロバ作りの見学や体験を促し、認知症の人や家族の方を地域で支えるネットワークづくりの必要性など、活動を通じて交流機会と見守り、認知症予防や地域ネットワークづくりを進めていけるよう心掛けている。

他の地域にも広がり出す兆しが見えてきたので、一歩ずつ進んで行けるように開催や情報共有のサポートをして、市内に広めて行けるよう配慮している。

6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

年度に1回2時間ステップアップ講座を市庁舎内で開催している。

<講座内容>

- ・キャラバン・メイトによる認知症サポーター養成講座の復習
- ・認知症サポート医の講義 かかりつけ主治医との関係づくり、認知症の方の体調管理の大切さについて
- ・社会福祉協議会職員より「ボランティアについての心得」
- ・市認知症施策担当より「他市事例紹介とオレンジサポート員活動発表」
- ・グループワーク（「こんな活動していただけますか」「こんな活動ならできるかも」）

7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

<効果>

ロバ作りをきっかけに認知症に関する知識の普及活動ができている。また、多職種との繋がりができている。

<課題>

認知症の本人・その家族、地域住民、地域の企業や団体をさらに巻き込んでいくにはどうするか。作ったロバをどう活用して新しい活動に広げていくか。

8 チームのアピールポイント

『登下校する小学生のランドセルにロバのマスコットをつけてもらうのが夢』と言うメンバーの言葉から、認知症サポーター養成講座を受講した小学生にマスコットを渡し、つけてもらう事ができた。

ロバ作りに参加されているチーム員、住民、認知症の本人・その家族の何気ない言葉から個別の課題、地域の課題、新しい活動ができるようにしている。

参加者が話しやすい環境をすること、じっくりと信頼関係を作ること、全員で活動しているという意識を持ち、小さなことからコツコツと行っている。

9 今後の活動について

チームの活動をオレンジサポート員に共有することで地区ごとの活動の参考にしていこう。各地区にもロバ作りをきっかけに活動場所ができ、地域ごとの課題を抽出、地域それぞれにあった活動を行う。

四街道市 1

チーム名 【 オレンジカフェクローバー 】
タイトル 【 地域に根差したオレンジカフェの開催 】

1 自治体情報（令和5年1月1日現在・面積のみ令和3年9月17日現在）

人口	高齢者人口	高齢化率	面積
96,226人	27,301人	28.4%	34.52K㎡
四街道市は こんなところ！	<p>当市は県北部に位置し、千葉市と佐倉市に隣接しています。 人口は昭和40年代前半から、大型団地が数多く誕生したことにより急激に増加しました。 また、県都千葉市へ8キロメートル、都心へ40キロメートルの圏内にあり、首都圏のベッドタウンとして自然と都市機能が調和しながら成長してきたまちです。</p>		

2 活動の概要

開始時期	令和3年12月
実施主体	<input type="checkbox"/> 市町村 <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター <input type="checkbox"/> 住民・ボランティア <input type="checkbox"/> 社会福祉協議会 <input checked="" type="checkbox"/> その他（ デイサービス施設 ）
活動内容	オレンジカフェ
活動頻度	2ヶ月に1回
参加費	100円（自己負担）
運営財源	<input type="checkbox"/> 市町村からの委託 <input type="checkbox"/> 市町村からの補助 <input checked="" type="checkbox"/> 会費・参加費 <input checked="" type="checkbox"/> その他（ ボランティア保険 ） ※上記の財源 <input type="checkbox"/> 市町村一般財源 <input type="checkbox"/> 地域支援事業交付金 <input checked="" type="checkbox"/> その他（ 自己負担・デイサービス施設負担 ）
メンバー構成	認知症当事者、介護者家族、デイサービス施設の職員 居宅介護支援専門員、元民生委員 オレンジボランティア、地域包括支援センターの地区担当
チームオレンジ コーディネーターの属性	認知症地域支援推進員
チームオレンジの類型 ※1	<input type="checkbox"/> 第1類型（共生志向の標準タイプ） <input checked="" type="checkbox"/> 第2類型（既存拠点活用タイプ） <input type="checkbox"/> 第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） <input type="checkbox"/> その他
チームオレンジ三つの基本 について ※2	<input checked="" type="checkbox"/> 3つの基本を満たしている <input type="checkbox"/> 3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている

3 チームオレンジ結成までの流れと経過

新型コロナウイルス感染症拡大以前から「クローバーケアつくし座デイサービス」より認知症地域支援推進員にオレンジカフェの立ち上げに関する相談があった。

その後、認知症初期集中支援チームが同一の地域にて、趣味の音楽演奏を披露できる居場所を探している支援対象者がいるとの情報があり、認知症地域支援推進員とデイサービス施設の担当者、民生委員でオレンジカフェの開催について話し合いを行いながら当市のオレンジボランティアに声掛けをし、カフェを開催。

その上で、音楽演奏をしたい認知症当事者は近所に住む協力者の支援を受けながら音楽演奏ボランティアとしてカフェに参加。現在はカフェの内容等を参加者全員で話し合いながら開催している。

4 活動内容

- ・偶数月第2日曜日13時30分～15時30分

5 活動を進めていく上で工夫したこと・配慮したこと

- ・参加者全員が活躍できる場になる事を大切にしている。
- ・心地よい居場所と思えるような雰囲気作りを目指している。
- ・ボランティア保険の加入により、安心して参加できる環境づくりをしている。
- ・毎回の開催時に自治会掲示板に掲載し、地域住民への参加を促している。

6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

市内で年間2回、定例開催。サポーター養成講座終了後、1～2か月で実施している。講義は2時間、講師は市職員と包括職員で実施。

内容は①四街道市の動向について、②チームオレンジとは、③当事者の思いについて、④認知症の人も安心して暮らせるまちへ～当事者からのメッセージ～、⑤認知症の方への対応について（グループワーク）等。

7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

<効果>

- ・地域住民の参加も増え、当初目指していた「地域に開かれたカフェ」の運営ができている。具体的には、地域住民の独居高齢者男性の参加がある。

<課題>

- ・オレンジカフェで具体的に何をやるかなどの計画を立てることが大変。

8 チームのアピールポイント

- ・参加者全員が活躍できる場になることを大切にしている。
- ・心地よい居場所と思えるような雰囲気作りを目指している。
- ・ボランティア保険の加入により安心して参加できる。

9 今後の活動について

- ・地域住民との情報交換を行いながらオレンジカフェを継続していく。

四街道市 2

チーム名 【 チーム水曜会 】
タイトル 【 不安の大きい認知症独居高齢者に傾聴ボランティアが専門職のサポートを受け、個別支援を開始した事例 】

1 自治体情報（令和5年1月1日現在・面積のみ令和3年9月17日現在）

人口	高齢者人口	高齢化率	面積
96,226人	27,301人	28.4%	34.52K㎡
四街道市は こんなところ！	<p>当市は県北部に位置し、千葉市と佐倉市に隣接しています。 人口は昭和40年代前半から、大型団地が数多く誕生したことにより急激に増加しました。 また、県都千葉市へ8キロメートル、都心へ40キロメートルの圏内にあり、首都圏のベッドタウンとして自然と都市機能が調和しながら成長してきたまちです。</p>		

2 活動の概要

開始時期	令和4年11月
実施主体	<input type="checkbox"/> 市町村 <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター <input type="checkbox"/> 住民・ボランティア <input checked="" type="checkbox"/> 社会福祉協議会 <input type="checkbox"/> その他（ ）
活動内容	個別定期訪問
活動頻度	月2回（第2・第4火曜）
参加費	無料
運営財源	<input type="checkbox"/> 市町村からの委託 <input type="checkbox"/> 市町村からの補助 <input type="checkbox"/> 会費・参加費 <input type="checkbox"/> その他（ ） ※上記の財源 <input type="checkbox"/> 市町村一般財源 <input type="checkbox"/> 地域支援事業交付金 <input type="checkbox"/> その他（ ）
メンバー構成	認知症当事者 ボランティアセンター（四街道市社会福祉協議会） 担当介護支援専門員、水曜会（傾聴ボランティア） 四街道市地域包括支援センター 認知症初期集中支援チーム
チームオレンジ コーディネーターの属性	認知症地域支援推進員
チームオレンジの類型 ※1	<input type="checkbox"/> 第1類型（共生志向の標準タイプ） <input type="checkbox"/> 第2類型（既存拠点活用タイプ）

	<input checked="" type="checkbox"/> 第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） <input type="checkbox"/> その他
チームオレンジ三つの基本について ※2	<input checked="" type="checkbox"/> 3つの基本を満たしている <input type="checkbox"/> 3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている

3 チームオレンジ結成までの流れと経過

認知症当事者を認知症初期集中支援チーム（令和3年5月～令和3年9月）にて支援。通所サービスへの利用に強い拒否があり、要介護1の認定を受けて独居在宅生活を継続、週3回の訪問ヘルパーを利用していた。

また、不安感が強く頻回に別居の家族へ電話し不安を訴え続けていた。

その後、令和4年7月に担当の介護支援専門員より認知症地域支援推進員に傾聴ボランティアがないかと相談があり、ボランティアセンターに登録している団体（水曜会）に声掛けをした。

その際、水曜会（傾聴ボランティア）よりコロナ以前に高齢者施設を周り活動する定例会があったこと（現在は未実施）や過去に個別支援をした実績がないとの話を受け、地域や認知症当事者の状況を伝えるための話し合いや地域ケア個別会議を6回開催。

水曜会のメンバーより「ステップアップ講座に参加し、正しい認知症への理解をしてから支援したい」との希望があり、ステップアップ講座の案内を行ったところ水曜会メンバーが受講（以前に、認知症サポーター養成講座受講済）。

そして、地域包括支援センターやボランティアセンターの職員が全メンバーの初回訪問に同行するサポートを行いながら令和4年11月10日に個別訪問を開始。

令和5年1月17日の訪問以降は水曜会のみで個別訪問、傾聴ボランティアを実施。

4 活動内容

月2回（第2・4火曜）に2人1組で認知症当事者の自宅を訪問し、1時間程度傾聴。情報交換はボランティアセンターを中心に担当の介護支援専門員、地域包括支援センターで実施。必要時には、振り返りや課題解決を行うための集まりを開催する。

5 活動を進めていく上で工夫したこと・配慮したこと

- ・関係機関や生活支援コーディネーターとの情報共有や協力などの実施。
- ・担当の介護支援専門員の意向とチームオレンジによる支援を適切にマッチングできるように支援すること。
- ・水曜会（傾聴ボランティア）が不安なく支援できるよう、ボランティアの支援体制の確立などを行ったこと。

6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

市内で年間2回、定例開催。サポーター養成講座終了後、1～2か月で実施している。講義は2時間、講師は市職員と包括職員で実施。

内容は①四街道市の動向について、②チームオレンジとは、③当事者の思いについて、④認知症の人も安心して暮らせるまちへ～当事者からのメッセージ～、⑤認知症の方への対応について（グループワーク）等。

7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

<効果>

- ・認知症独居高齢者の不安の軽減に傾聴ボランティアによる支援が可能であるとの実績ができたこと。
- ・介護支援専門員の計画立案（インフォーマル資源の活用）において、地域住民の力の活用ができること。
- ・一人の困り事・不安を多職種で検討し、検討したことを地域により支援できたこと。

<課題>

- ・一人で不安を抱える独居高齢者のニーズを把握することが困難。
- ・オレンジボランティア養成の促進と活躍の場の検討。
- ・介護支援専門員とチームオレンジのニーズのマッチングの促進。
- ・ボランティアが地域で力を発揮できるような連携の促進。

8 チームのアピールポイント

- ・認知症当事者と水曜会（傾聴ボランティア）メンバーがともに、不安のないよう活動を継続しながらその活動を支援する専門職の協力があること。
- ・今後地域で同じような不安を抱える他の認知症当事者がいた際に対応を検討できるチームであること。

9 今後の活動について

- ・今後は2週に1回の訪問を重ね、必要時に打ち合わせを実施する予定。
- ・本チームを市内居宅介護支援事業所と共有する機会を設ける予定。

四街道市 3

チーム名 【 オレンジカフェちよだ 】
タイトル 【 オレンジボランティアがオレンジカフェに参加する認知症当事者へサポートすることでカフェの参加が継続できている事例 】

1 自治体情報（令和5年1月1日現在・面積のみ令和3年9月17日現在）

人口	高齢者人口	高齢化率	面積
96,226人	27,301人	28.4%	34.52km ²
四街道市は こんなところ！	<p>当市は県北部に位置し、千葉市と佐倉市に隣接しています。 人口は昭和40年代前半から、大型団地が数多く誕生したことにより急激に増加しました。</p> <p>また、県都千葉市へ8キロメートル、都心へ40キロメートルの圏内にあり、首都圏のベッドタウンとして自然と都市機能が調和しながら成長してきたまちです。</p>		

2 活動の概要

開始時期	平成31年4月
実施主体	<input type="checkbox"/> 市町村 <input checked="" type="checkbox"/> 地域包括支援センター <input checked="" type="checkbox"/> 住民・ボランティア <input type="checkbox"/> 社会福祉協議会 <input type="checkbox"/> その他（ ）
活動内容	オレンジカフェ
活動頻度	月1回 第4日曜
参加費	0円～200円程度
運営財源	<input type="checkbox"/> 市町村からの委託 <input type="checkbox"/> 市町村からの補助 <input checked="" type="checkbox"/> 会費・参加費 <input type="checkbox"/> その他（ ） ※上記の財源 <input type="checkbox"/> 市町村一般財源 <input type="checkbox"/> 地域支援事業交付金 <input checked="" type="checkbox"/> その他（持ち寄り）
メンバー構成	認知症当事者（Aさん・Bさん）、介護者家族 介護支援専門員、オレンジボランティア 千代田中学校地区社会福祉協議会、民生委員 一般住民、四街道市地域包括支援センター 認知症初期集中支援チーム、訪問看護ステーション
チームオレンジ コーディネーターの属性	認知症地域支援推進員
チームオレンジの類型 ※1	<input type="checkbox"/> 第1類型（共生志向の標準タイプ） <input checked="" type="checkbox"/> 第2類型（既存拠点活用タイプ） <input type="checkbox"/> 第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） <input type="checkbox"/> その他

チームオレンジ三つの基本
について ※2

■3つの基本を満たしている

□3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている

3 チームオレンジ結成までの流れと経過

①独居で認知症当事者Aさんがオレンジカフェの開催日時を間違えるなどの事例があり、同じ地域に住むオレンジボランティア（ステップアップ講座受講済）と一緒に参加することで、カフェ参加を継続できている。

その後、顔なじみの関係ができ、カフェの日以外も訪問して声をかけることや困りごとはオレンジボランティアが包括へ本人の代わりに相談するなど本人を見守る仕組みができている。

②オレンジカフェの開催場所へ行く際、道に迷う不安がある認知症当事者Bさんがいたが、同じ地域に住むオレンジボランティア（ステップアップ講座受講済）と一緒にカフェに歩いていくことで参加が継続できた。

また、カフェ開催中も参加しやすい声かけをおこなっていた。現在は本人の認知症の悪化により妄想症状が出ているため、カフェへの参加ができなくなっている。

4 活動内容

① Aさん：オレンジカフェ参加日時の声かけやカフェまでの車による送迎、カフェ参加中の支援。

② Bさん：オレンジカフェ参加日時の声かけや家族への連絡、カフェまでの徒歩による送迎、カフェ参加中の支援。

5 活動を進めていく上で工夫したこと・配慮したこと

・同じ地域に住むオレンジボランティア（ステップアップ講座受講済）へ当事者のサポートを認知症地域支援推進員より個別に声をかけしお願いした。

・オレンジボランティアの負担が大きくなるように、カフェ内でもお互い相談しやすい雰囲気を作った。

6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

市内で年間2回、定例開催。サポーター養成講座終了後、1～2か月で実施している。講義は2時間、講師は市職員と包括職員で実施。

内容は①四街道市の動向について、②チームオレンジとは、③当事者の思いについて、④認知症の人も安心して暮らせるまちへ～当事者からのメッセージ～、⑤認知症の方への対応について（グループワーク）等。

7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

<効果>

・地域での認知症の理解が進んだこと。

・認知症になっても、住み慣れた地域で暮らすために、見守り助け合う必要性を伝えることができたことで、見守り体制を整えることができた。

・地域住民と一緒にカフェのあり方や内容を考えながら地域住民同士のつながりづくりができたこと。

<課題>

- ・認知症になったらおしまいという考えも根強く残っていること。
- ・オレンジボランティアの高齢化。
- ・住民主体型のカフェではあるが、地域包括支援センターの関わりがないとカフェの継続が難しい状況にあること。

8 チームのアピールポイント

- ・認知症の人とその家族、地域の人が気軽に集い、語り合える場所である。
- ・優しくほっこりとした雰囲気、地域の仲間が集まって、工作やおしゃべり体操を楽しんでいる。
- ・参加者が自分の得意な趣味やアイデアを持ち寄り、楽器演奏や、ゲーム、クリスマスリース作りなどのイベントを企画している。

9 今後の活動について

認知症という言葉キーワードに集まれる地域の居場所として、認知症当事者や家族、ボランティア、専門職などの参加者全員が楽しめるカフェとして活動する。

四街道市 4

チーム名 【 チームわろうべの里 】
タイトル 【 オレンジカフェでの活動 】

1 自治体情報（令和5年1月1日現在・面積のみ令和3年9月17日現在）

人口	高齢者人口	高齢化率	面積
96,226人	27,301人	28.4%	34.52K㎡
四街道市は こんなところ！	<p>当市は県北部に位置し、千葉市と佐倉市に隣接しています。 人口は昭和40年代前半から、大型団地が数多く誕生したことにより急激に増加しました。 また、県都千葉市へ8キロメートル、都心へ40キロメートルの圏内にあり、首都圏のベッドタウンとして自然と都市機能が調和しながら成長してきたまちです。</p>		

2 活動の概要

開始時期	平成30年8月
実施主体	<input type="checkbox"/> 市町村 <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター <input checked="" type="checkbox"/> 住民・ボランティア <input type="checkbox"/> 社会福祉協議会 <input type="checkbox"/> その他（ ）
活動内容	オレンジカフェでのサポート
活動頻度	2ヶ月に1回
参加費	無料
運営財源	<input type="checkbox"/> 市町村からの委託 <input type="checkbox"/> 市町村からの補助 <input type="checkbox"/> 会費・参加費 <input type="checkbox"/> その他（ ） ※上記の財源 <input type="checkbox"/> 市町村一般財源 <input type="checkbox"/> 地域支援事業交付金 <input type="checkbox"/> その他（ ）
メンバー構成	オレンジボランティア（70歳代の方々）
チームオレンジ コーディネーターの属性	担当圏域の地域包括支援センター職員
チームオレンジの類型 ※1	<input type="checkbox"/> 第1類型（共生志向の標準タイプ） <input checked="" type="checkbox"/> 第2類型（既存拠点活用タイプ） <input type="checkbox"/> 第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） <input type="checkbox"/> その他
チームオレンジ三つの基本 について ※2	<input type="checkbox"/> 3つの基本を満たしている <input checked="" type="checkbox"/> 3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている

3 チームオレンジ結成までの流れと経過

- ・認知症カフェを開催する中で、認知症ステップアップ講座を受講後ボランティア登録された方に声掛けし、お誘いする中で、活動して下さる方が少しずつ増えチームとなった。

4 活動内容

- ・オレンジカフェでのサポート。
- ・受付や室内の誘導。
- ・介護者家族の話しの傾聴や悩みへの助言、認知症当事者とのおしゃべりやレクリエーションの実施。
- ・お茶の準備や、お菓子作り、ランチ会での料理を教える役など。
(新型コロナウイルスの感染拡大により中止中)

5 活動を進めていく上で工夫したこと・配慮したこと

- ・意見を聞きながら一緒にカフェを作ってきた。
- ・打ち合わせを通してモチベーションの維持を図るようにした。
- ・時間的、精神的な負担感に配慮した。

6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

市内で年間2回、定例開催。サポーター養成講座終了後、1～2か月で実施している。講義は2時間、講師は市職員と包括職員で実施。

内容は①四街道市の動向について、②チームオレンジとは、③当事者の思いについて、④認知症の人も安心して暮らせるまちへ～当事者からのメッセージ～、⑤認知症の方への対応について（グループワーク）等。

7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

<効果>

- ・チームの協力で参加者に細やかに関ることができ、カフェの運営が落ち着いてきた。
- ・また参加者が少しずつ増えているように思う。

<課題>

- ・今後のチームの活動をどう広めていくか。

8 チームのアピールポイント

レクリエーションや料理、お菓子作りが得意な方や手先が器用な方など多彩なことをできる方が多いこと。

9 今後の活動について

- ・オレンジカフェ以外での活動の場、活動できるチームを作る。
- ・困っている人の為のチーム作りを検討したい。その為のメンバーも増やしたい。

白井市

チーム名 ついていません。

タイトル

【本人・家族とともに住み慣れた地域で楽しいひとときを！】

1 自治体情報(令和4年12月末日現在)

人口	高齢者人口	高齢化率	面積
62,845 人	17,557 人	27.9%	35.48K m ²
白井市は こんなところ！	<p>都心までのアクセスの良さから東京のベッドタウンとして千葉ニュータウンとともに発展してきました。</p> <p>百年以上の歴史のある「しろいの梨」が特産で、未来のジョッキーが集まる JRA 競馬学校もあるなど、自然豊かな街です。</p>		

2 活動の概要

開始時期	2018 年
実施主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村 <input checked="" type="checkbox"/> 地域包括支援センター <input checked="" type="checkbox"/> 住民・ボランティア <input type="checkbox"/> 社会福祉協議会 <input type="checkbox"/> その他()
活動内容	①認知症カフェの開催 ②見守り訪問活動
活動頻度	①市内 3 か所 2 回/月もしくは 1 回/月開催 ②ケースに対し、2 回/月程度の訪問
参加費	—
運営財源	<input type="checkbox"/> 市町村からの委託 <input type="checkbox"/> 市町村からの補助 <input type="checkbox"/> 会費・参加費 <input checked="" type="checkbox"/> その他(市直営) ※上記の財源 <input type="checkbox"/> 市町村一般財源 <input checked="" type="checkbox"/> 地域支援事業交付金 <input checked="" type="checkbox"/> その他(カフェは社会福祉協議会の補助金あり)
メンバー構成	認知症の本人、家族、認知症パートナー(ステップアップ講座修了者)、みまもりコーディネーター、地域包括支援センター職員など
チームオレンジ コーディネーターの属性	コーディネーター設置なし
チームオレンジの種類 ※1	<input type="checkbox"/> 第 1 類型(共生志向の標準タイプ) <input checked="" type="checkbox"/> 第 2 類型(既存拠点活用タイプ) <input type="checkbox"/> 第 3 類型(拠点を設置しない個別支援型タイプ) <input type="checkbox"/> その他
チームオレンジ三つの基本に ついて ※2	<input checked="" type="checkbox"/> 3 つの基本を満たしている <input type="checkbox"/> 3 つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている

3 チームオレンジ結成までの流れと経過

認知症サポーターのうち、ステップアップ講座を受講した者が、認知症の本人とその家族、多職種の地域サポーターと協力しながら、早期からの継続支援を実施してきた経緯があり、それらの活動を「チームオレンジ」としての活動に位置づけることとした。

4 活動内容

① 認知症カフェの運営

ステップアップ講座終了者が認知症カフェを運営しており、本人や家族の要望を聞きながら内容等を工夫して実施している。

② 見守り訪問活動

見守り訪問活動の利用の際に、本人・家族・みまもりコーディネーター・担当地区の地域包括支援センター・訪問活動を実施するボランティアで、本人の希望の共有をする機会を設けている。

5 活動を進めていく上で工夫したこと・配慮したこと

活動を実施するボランティアに対し、活動に際して心配なこと、困ったこと等の相談を受けるなど、各地域の地域包括支援センターが後方支援を行う体制をとっている。

6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

(開催状況) 年1回 認知症パートナー養成講座としてステップアップ講座を開催。

(講座内容)

- ・認知症パートナーの必要性和役割の理解
- ・認知症の人への接し方
- ・地域に必要な社会資源を考える
- ・高齢者の特徴(身体面・精神面)について学ぶ

7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

<効果>

見守り活動を通して認知症の本人や家族と認知症パートナーとの関係性が深まり、認知症カフェへの来所につながるなど、認知症の本人の社会参加が促され、本人の楽しみや生きがいができるなどの効果があった。

<課題>

チームオレンジの活動の中で得られた認知症の本人や家族の意向や思いを反映した活動を広げ、施策等に反映させていく必要があると感じている。

8 チームのアピールポイント

認知症の本人や家族の意向や思いを大切に、チームオレンジのメンバー皆が楽しめる活動を行っている。

9 今後の活動について

今後も、認知症の本人や家族の意向や思いを反映した活動を広げていく。

認知症パートナーとして活動する仲間が増えるよう活動の周知を行うとともに、「共生」という概念の周知や認知症の人も地域の仲間として一緒に活動する環境づくりを進めていきたい。

香取市

チーム名 【 香取オレンジ会 】
タイトル 【香取オレンジ会ステップアップ研修会を開催し情報交換】

1 自治体情報（令和4年4月1日現在）

人口	高齢者人口	高齢化率	面積
72,661人	27,246人	37.5%	262.3K㎡
香取市は こんなところ！	千葉県北東部に位置し、北総台地の一角を占めています。 東国三社の一つ「香取神宮」日本初の実測日本地図を作成した偉人「伊能忠敬」が有名です。		

2 活動の概要

開始時期	令和4年
実施主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村 <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター <input type="checkbox"/> 住民・ボランティア <input type="checkbox"/> 社会福祉協議会 <input type="checkbox"/> その他（ ）
活動内容	ステップアップ研修会の開催 情報交換、事例検討（地域の認知症高齢者を見守るために）
活動頻度	各自所属している団体等で活動を継続
参加費	0円
運営財源	<input type="checkbox"/> 市町村からの委託 <input type="checkbox"/> 市町村からの補助 <input type="checkbox"/> 会費・参加費 <input type="checkbox"/> その他（ ） ※上記の財源 <input type="checkbox"/> 市町村一般財源 <input type="checkbox"/> 地域支援事業交付金 <input checked="" type="checkbox"/> その他（所属団体の財源）
メンバー構成	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症サポーター ・キャラバンメイト ・認知症初期集中支援チーム員 ・認知症家族会 ・認知症カフェ ・グループホーム職員 ・小多機職員
チームオレンジ コーディネーターの属性	
チームオレンジの類型 ※1	<input type="checkbox"/> 第1類型（共生志向の標準タイプ） <input type="checkbox"/> 第2類型（既存拠点活用タイプ） <input type="checkbox"/> 第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） <input checked="" type="checkbox"/> その他
チームオレンジ三つの基本 について ※2	<input type="checkbox"/> 3つの基本を満たしている <input checked="" type="checkbox"/> 3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている

3 チームオレンジ結成までの流れと経過

昨年度までの状況をふまえ、今年度はステップアップ研修会を開催し、チームオレンジを結成した。

4 活動内容

具体的な活動はこれからである。

研修会では、それぞれ活動している状況について情報交換を行い、今後の活動に役立てていく。

5 活動を進めていく上で工夫したこと・配慮したこと

6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

今年度の開催は1回 内容は情報交換、事例検討等

7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

<効果>

<課題>

8 チームのアピールポイント

9 今後の活動について

チームオレンジのメンバーを増やし、地域ごとの課題に合わせた活動を具体的に行っていく。

山武市

チーム名 【さんむオレンジチーム】
タイトル 【 認知症サポーターステップアップ勉強会 】

1 自治体情報（令和5年2月1日現在）

人口	高齢者人口	高齢化率	面積
49,010人	18,073人	36.8%	146.77K m ²
山武市は こんなところ！	<p>海と緑に囲まれており、市の南には九十九里浜を有し、夏季にはマリンスライダーを楽しめます。</p> <p>市の中心部から北西部には、田園風景が広がる平野と森林の木々が生い茂る自然豊かな場所です。</p> <p>千葉県の中でネギの産出額は県内1位、他にも人参、里芋、ブロッコリー、いちごが県内3位となっています。（令和元年度）</p> <p>山武市のマスコットキャラクター「SUNムシくん」は、サンサンと輝く太陽の明るさと大空に向かって飛びたつてんとう虫と名産いちごの形をしており、可愛らしいため子ども達に人気があります。</p>		

2 活動の概要

開始時期	令和4年4月頃～
実施主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市町村 <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター <input type="checkbox"/> 住民・ボランティア <input type="checkbox"/> 社会福祉協議会 <input type="checkbox"/> その他（ ）
活動内容	チームオレンジとして活動するための勉強会や市の認知症啓発活動を共に行っている。
活動頻度	月1回
参加費	無料
運営財源	<input type="checkbox"/> 市町村からの委託 <input type="checkbox"/> 市町村からの補助 <input type="checkbox"/> 会費・参加費 <input checked="" type="checkbox"/> その他（活動に必要な物品等は市町村が購入） ※上記の財源 <input type="checkbox"/> 市町村一般財源 <input checked="" type="checkbox"/> 地域支援事業交付金 <input type="checkbox"/> その他（ ）
メンバー構成	<ul style="list-style-type: none"> ・市役所 直営包括支援センター 2名 ・委託包括支援センター 2名 ・社会福祉協議会 1名 ・認知症サポーターステップアップ講座を受講者した市民
チームオレンジ コーディネーターの属性	委託包括職員1名（チームオレンジコーディネーター）

<p>チームオレンジの類型 ※1</p>	<p><input type="checkbox"/>第1類型（共生志向の標準タイプ） <input type="checkbox"/>第2類型（既存拠点活用タイプ） <input type="checkbox"/>第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） <input checked="" type="checkbox"/>その他</p>
<p>チームオレンジ三つの基本 について ※2</p>	<p><input type="checkbox"/>3つの基本を満たしている <input checked="" type="checkbox"/>3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている</p>

3 チームオレンジ結成までの流れと経過

- ・令和4年度4月から毎月1回認知症サポーターステップアップ受講者勉強会を行い、チームオレンジとなる活動について話し合う。

4 活動内容

- ・令和4年3月に認知症サポーターステップアップ講座を実施し、チームオレンジになるための勉強会に参加希望者を募る。
- ・令和4年4月から毎月1回チームオレンジになるための認知症サポーターステップアップ受講者勉強会を行う。
- ・認知症啓発活動として、認知症カフェやさんむオレンジチーム（認知症サポーターステップアップ勉強会）について紹介・掲示を行う。

5 活動を進めていく上で工夫したこと・配慮したこと

- ・メンバー同士で介護の悩みを相談しアドバイスし合える雰囲気づくりを心掛けた。

6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

年1回開催。過去に認知症サポーター養成講座を受講した方を対象に、今後チームオレンジとして活動するために必要な知識、対応スキル等の習得を目的とする。

【講座内容】

- ・講座の目的や内容について説明
- ・市の認知症に関する事業について説明
- ・「高齢者や認知症の方への対応の仕方について」グループワーク
- ・「地域での活動について」グループワーク

7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

<効果>

- ・さんむオレンジチームで毎月1回話し合いをし、チームメンバーがお互いに認知症介護の経験や地域での活動支援について話し合うことで、今後どのような活動が必要か考えるようになれたと感じる。

<課題>

- ・チームメンバーからリーダーかまとめ役がでるとよい。
- ・活動場所や活動内容を具体化し、全世代が交流できるような場所にしたい。

8 チームのアピールポイント

- ・メンバーの中で認知症の方を介護している人がおり、対応方法や悩みについて、お互いに助言し合える関係性が構築されている。
- ・脳トレ教室の講師がおり、勉強会の中で介護予防体操を体験できる。

9 今後の活動について

- ・「さんむオレンジチーム」の市民メンバーが中心となり、拠点となる場所や活動を検討していくように支援していきたい。
- ・今後、認知症の人だけではなく、子供から高齢者の人たちが集まり交流ができ、みんなで支え合えるような場所をつくりたい

芝山町

チーム名 【 チームしばっこ 】
タイトル 【 みんなの居場所「しばっこカフェ」 】

1 自治体情報（令和4年12月31日現在）

人口	高齢者人口	高齢化率	面積
6、905 人	2、478人	35、89%	43、24K㎡
芝山町は こんなところ！	<p>千葉県北東部に位置し、日本の玄関である成田国際空港に隣接しているため、至るところで飛行機の姿が目に入り、おのずと空を見上げてしまいます。</p> <p>町の面積の大半を農地が占め、四季折々の野菜や花々など自然豊かであり、埴輪をはじめ数多くの遺物が発掘され古代の趣を感じられる町です。</p>		

2 活動の概要

開始時期	令和4年7月
実施主体	<input type="checkbox"/> 市町村 <input checked="" type="checkbox"/> 地域包括支援センター <input type="checkbox"/> 住民・ボランティア <input type="checkbox"/> 社会福祉協議会 <input type="checkbox"/> その他（ ）
活動内容	認知症カフェの運営
活動頻度	毎月1回
参加費	100円
運営財源	<input type="checkbox"/> 市町村からの委託 <input checked="" type="checkbox"/> 市町村からの補助 <input type="checkbox"/> 会費・参加費 <input type="checkbox"/> その他（ ） ※上記の財源 <input type="checkbox"/> 市町村一般財源 <input checked="" type="checkbox"/> 地域支援事業交付金 <input type="checkbox"/> その他（ ）
メンバー構成	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症サポーターステップアップ講座修了者 ・居宅介護支援事業所のケアマネジャー ・地域包括支援センター職員（認知症地域支援推進員）
チームオレンジ コーディネーターの属性	地域包括支援センター職員（認知症地域支援推進員）が兼ねている
チームオレンジの類型 ※1	<input type="checkbox"/> 第1類型（共生志向の標準タイプ） <input checked="" type="checkbox"/> 第2類型（既存拠点活用タイプ） <input type="checkbox"/> 第3類型（拠点を設置しない個別支援型タイプ） <input type="checkbox"/> その他
チームオレンジ三つの基本 について ※2	<input type="checkbox"/> 3つの基本を満たしている <input checked="" type="checkbox"/> 3つの基本は満たさないものの仕組みが構築されている

3 チームオレンジ結成までの流れと経過

- ・認知症サポーター受講者の中から、カフェでボランティアとして活動してくれる方を募った。数名の方がボランティアとして活動してくれることになり、認知症の方の居場所づくり、認知症の方を介護する家族の支えとなるように地域の方々が集まれる場所として、平成31年4月 認知症カフェ「しばっこカフェ」を開設した。
- ・認知症サポーター養成講座を受講したカフェのボランティアに、認知症サポーターステップアップ講座を受講してもらい、令和4年6月「チームしばっこ」が結成された。

4 活動内容

- ・毎月1回の認知症カフェの運営。受付をし、茶菓子を出している。
対話をメインとし、折り紙、トランプ、脳トレプリントなど参加者がやりたいことに取り組んでもらう。カフェの終わり頃には、全員で体操や笑いヨガをやってる。
- ・近所の方に認知症カフェへの参加の声掛け



↑カフェの看板



↑カフェでトランプをしている様子

5 活動を進めていく上で工夫したこと・配慮したこと

- ・活動意欲が低下しないよう、定期的にメンバー同士で話し合いの機会を持ち気持ちを盛り立てている。
- ・カフェ参加者が1人にならないように、ボランティアが声をかけている。また毎回同じボランティアが話し相手にならないようにしている。
- ・緊急事態宣言中やまん延防止措置が取られているときは、開催を見送った。開催時は、カフェでのおやつは控えてもらい感染対策を講じて、極力対面方式で開催した。
- ・3～4か月に1回、認知症カフェの日程を広報に掲載している。また、認知症カフェ及びボランティアの特集を組み広報に掲載してもらった。

6 ステップアップ講座の開催状況・講座内容について

3回に分けて講座を実施。

- ・1回目（講義）：認知症についての基礎知識の復習。認知症の人との接し方について。
- ・2回目（施設実習）：デイサービスへ行き、利用者と交流を図る。
- ・3回目（講義）講義：チームオレンジについて。町の認知症施策について。
施設実習の感想、まとめ。

7 活動してきたことで得られた効果・見えてきた課題

<効果>

- ・ボランティアは、カフェの参加者に楽しく過ごせるように声かけ等をしてきている。また本人のやりたいことができるように支援してくれている。
- ・ボランティア自身の生きがいがいづくりになっている。
- ・認知症と診断がついていなくても、認知症疑いの方やMCIの方などがカフェで把握できている。

<課題>

- ・活動が月1回のみとなっている。
- ・地域包括支援センターが運営主体となっているので、チームしばっこのメンバーが主体的に活動できるように体制整備する。
- ・男性のカフェ参加者が少ない。

8 チームのアピールポイント

- ・「地域のために貢献したい」と意欲あふれるチーム。カフェではチーム員の見守りのもと、自分のやりたいことに取り組めるため、楽しいひと時が過ごせる。
- ・チーム員全員、オレンジ色のエプロンを着用している。同じものを身につけているので、一目でチームメンバーが分かる。

9 今後の活動について

住民だけでなく職域からの認知症サポーターを増やし、認知症に理解のある人を増やしていきたい。

担当部署

千葉県健康福祉部 高齢者福祉課 認知症対策推進班

住 所 〒260-8667 千葉県千葉市中央区市場町1番1号

電 話 042-223-2237

ホームページ <https://www.pref.chiba.lg.jp/koufuku/shien/ninchishou/supporter-caravan.html>